



2026年3月期

# 決算説明資料

2026年5月14日

**売上高** 11期連続過去最高更新、売上高1兆円を突破

**利益** 売上総利益率よりも販管費率の伸びが大きく、各段階利益において前年を下回る

売上高

**10,047億円**  
前年比 101.9%

- ・ H&B・ペットカテゴリーが好調
- ・ 商品単価向上
- ・ 専売・優先流通品の好調

営業利益

**132億円**  
前年比 88.1%

- ・ 売上総利益率の低下  
→ センターフィー・リベートの増加
- ・ 販売管理費の増加

経常利益

**135億円**  
前年比 86.7%

- ・ 金利上昇による支払利息の増加

親会社株主に帰属する  
当期純利益

**101億円**  
前年比 97.8%

- ・ 固定資産売却益 約6億円
- ・ 投資有価証券売却益 約9億円

EBITDA

**180億円**  
前年比 91.5%

- ・ 減価償却費 約48億円  
(前年比 102.0%)

ROE

**8.4%**  
前年比 ▲0.8p

- ・ インフレによるコスト増加

環境変化による大きな転換期を迎えていると認識

新中計において、利益改善に向けて卸売業の本質に立ち返り攻守の体質強化を図る

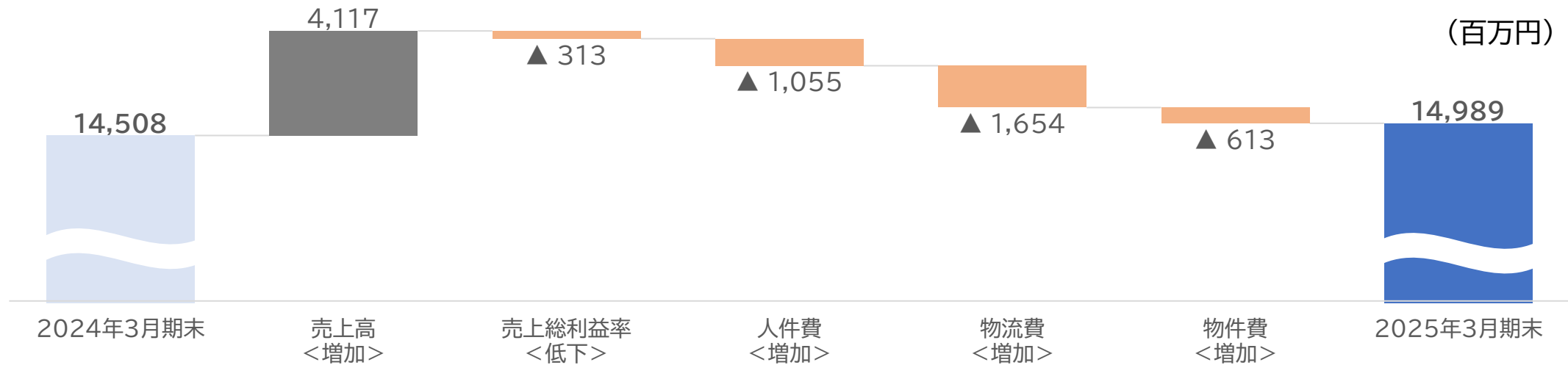
(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	2026年3月期 計画	計画比	前年同期比	
				率 (%)	差額	率 (%)
売上高	986,212	<b>1,004,749</b>	1,006,000	99.9	+18,536	101.9
売上総利益	96,221 (9.8)	<b>97,330</b> (9.7)	—	—	+1,108 (▲0.1p)	101.2
販売管理費	81,232 (8.2)	<b>84,123</b> (8.4)	—	—	+2,890 (+0.2p)	103.6
営業利益	14,989 (1.5)	<b>13,207</b> (1.3)	12,600 (1.3)	104.8	▲1,782 (▲0.2p)	88.1
経常利益	15,617 (1.6)	<b>13,534</b> (1.3)	13,000 (1.3)	104.1	▲2,083 (▲0.3p)	86.7
親会社株主に 帰属する当期純利益	10,358 (1.1)	<b>10,130</b> (1.0)	9,900 (1.0)	102.3	▲227 (▲0.1p)	97.8
EBITDA	19,757 (2.0)	<b>18,069</b> (1.8)	—	—	▲1,688 (▲0.2p)	91.5
ROE	9.2%	<b>8.4%</b>	10%	▲1.6p	▲0.8p	—

\* ( ) 内は対売上比(%)

\* 計画値は2026年2月10日発表数値

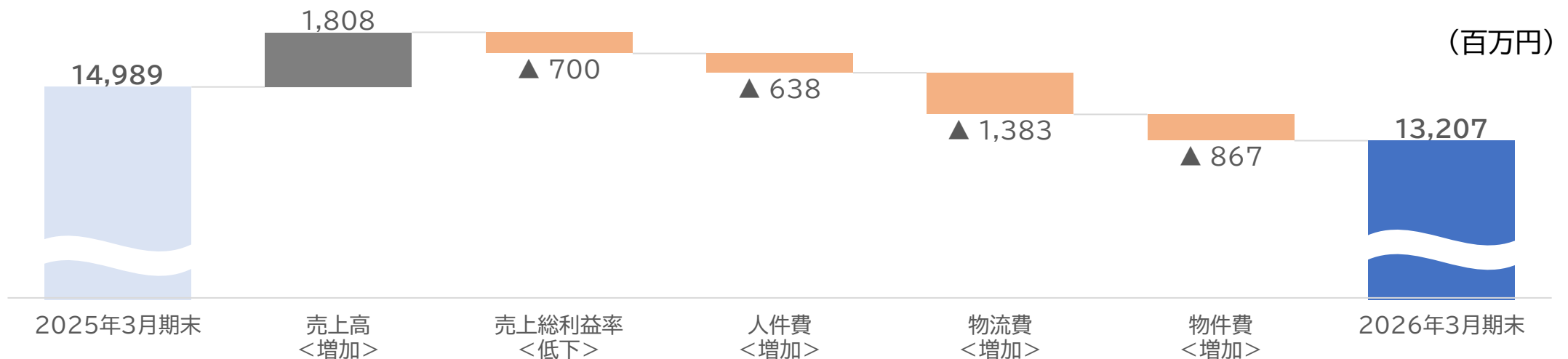
## 2025年3月期末(累計)

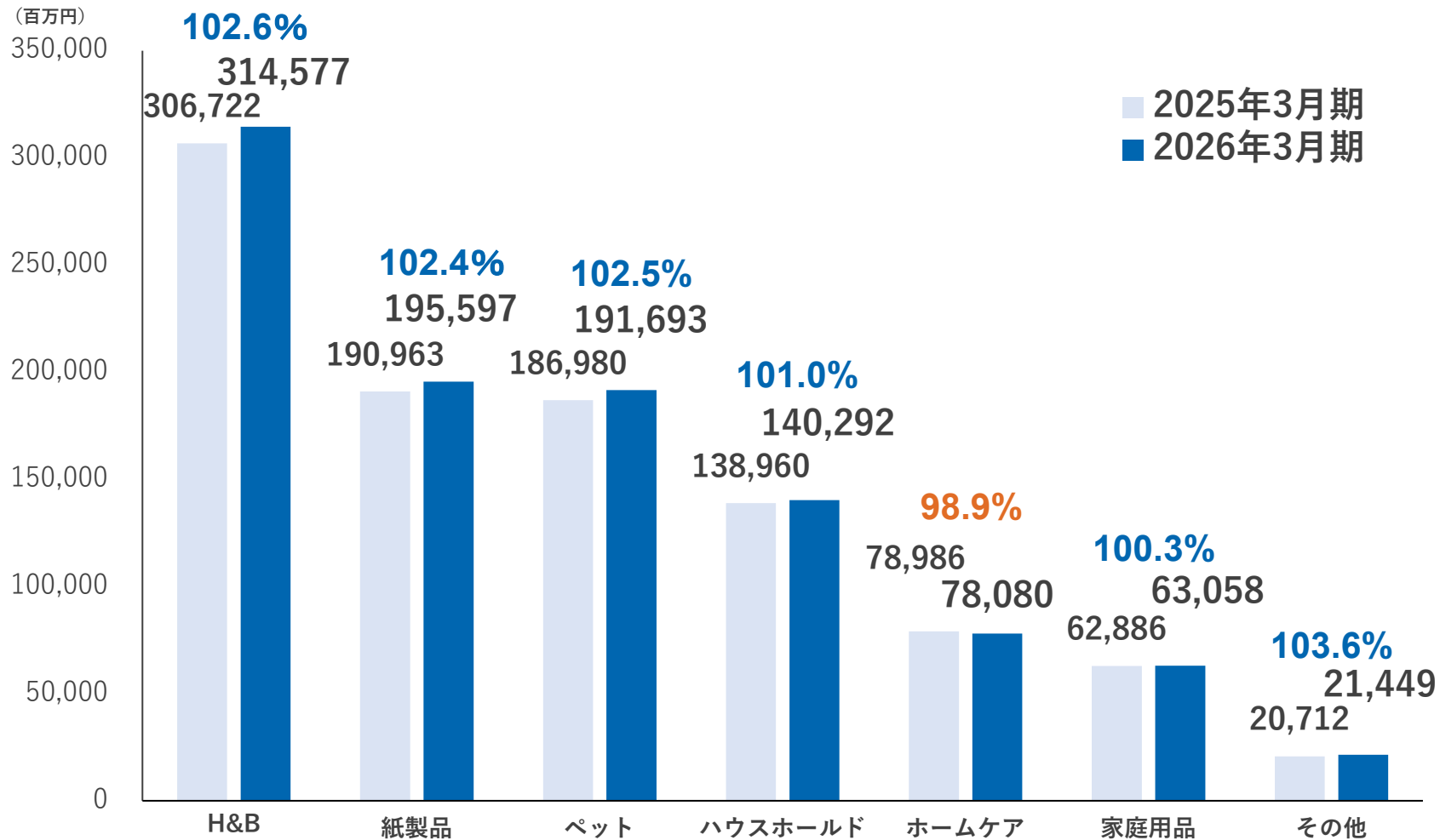
(百万円)



## 2026年3月期末(累計)

(百万円)





## H&B

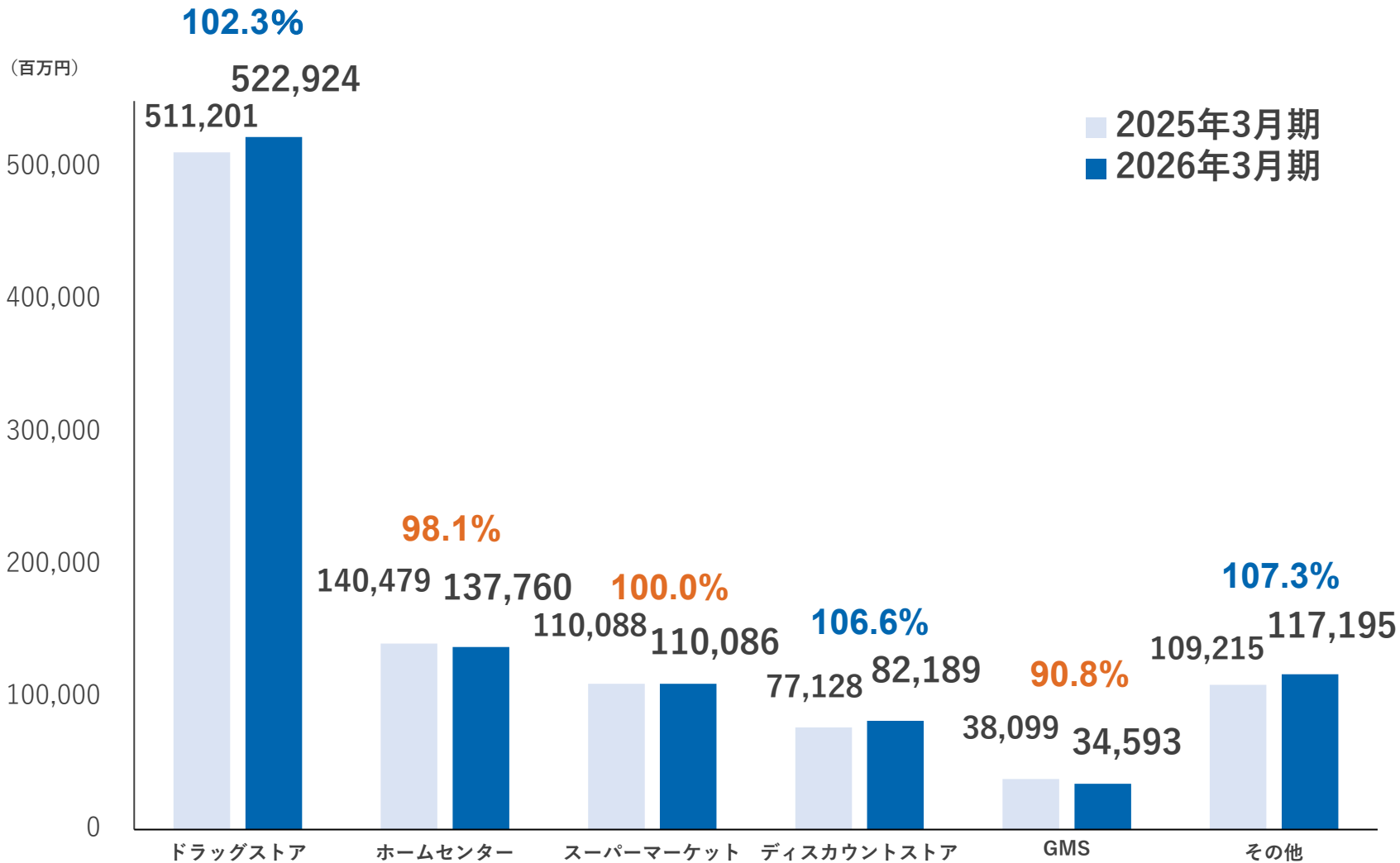
- ・ 戦略的なカテゴリー強化の奏功
- ・ 専売・優先流通品の中でもヘアケアが好調

## 紙製品

- ・ インストアシェアの拡大
- ・ 地政学リスクの高まりに伴う3月の仮需

## ペット

- ・ 新規取引開始およびインストアシェアの拡大



## ドラッグストア

- ・インバウンド需要による増加
- ・インスタシェアの拡大

## ディスカウントストア

- ・インバウンド需要による増加
- ・インスタシェアの拡大
- ・価格感度の高まりによる消費行動の変化

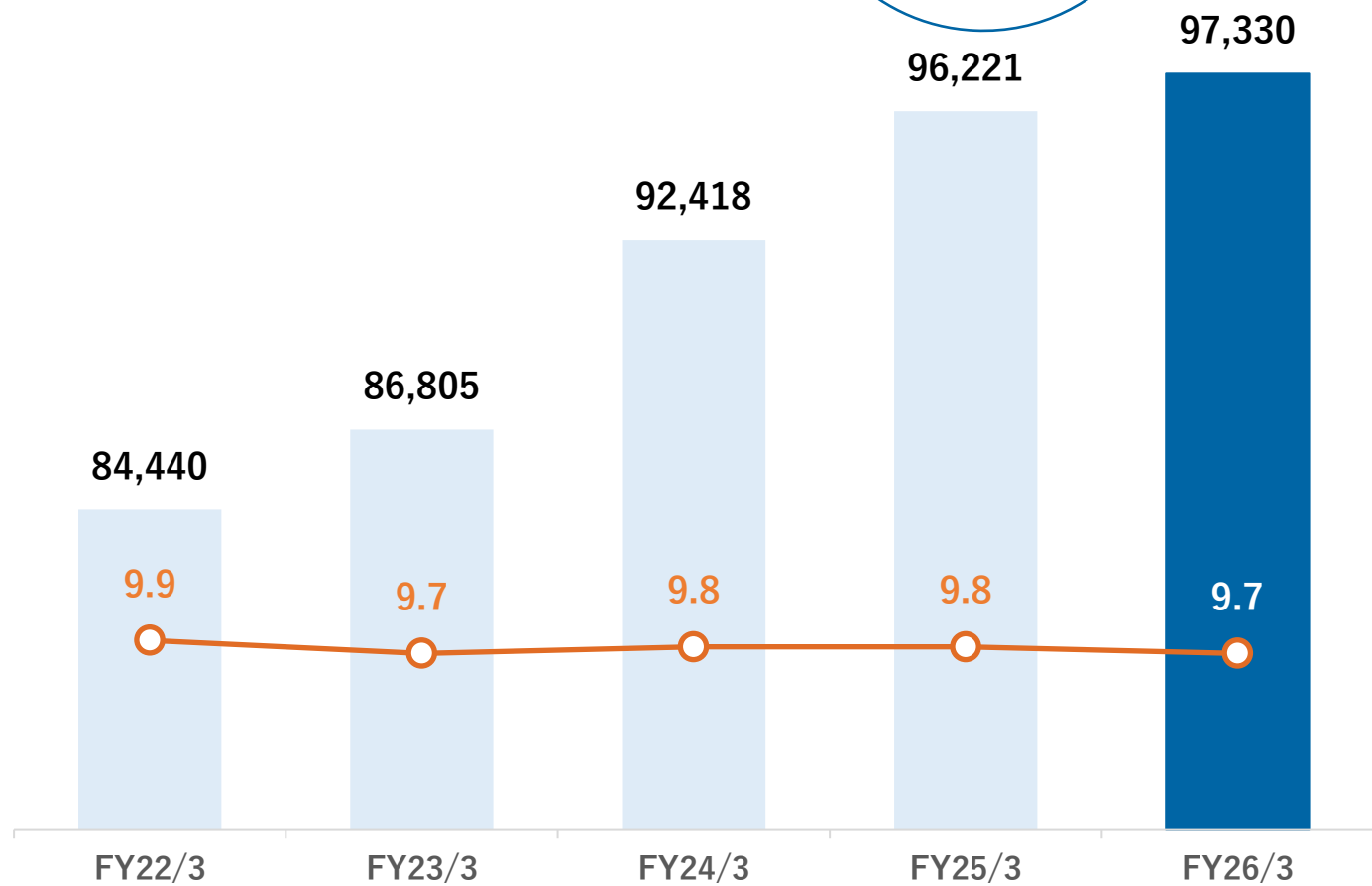
## その他

- ・前年下期からの新規取引業態による上期増加分の影響
- ・ペットカテゴリーのECの伸長

前年同期比  
**+1,108百万円**  
 (▲0.1p)

(百万円)

■ 売上総利益    ● 売上総利益率



### Point

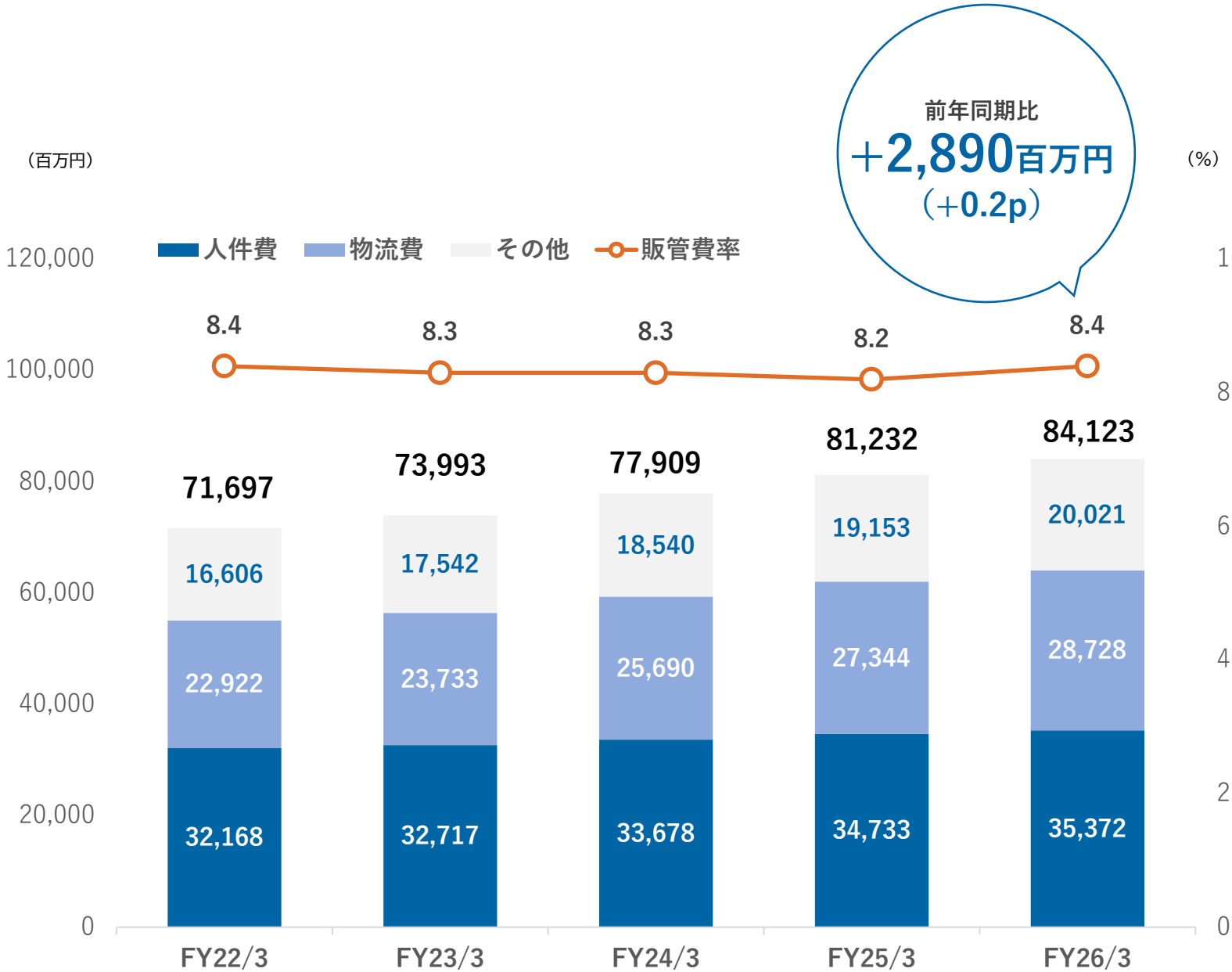
(%) 商品戦略は順調に推移するもセンターフィーの増加等が大きく影響して売上総利益率は低下

### 内部要因

- ・ 売上増加に伴う売上総利益額の増加
- ・ 収益性の高い化粧品および専売・優先流通品の売上高構成比の拡大

### 外部要因

- ・ センターフィー・リベートの増加
- ・ 流通業界の環境変化による売上総利益率の低下



Point

インフレによる各種費用の増加

内部要因

- ・ IT中計の導入は完了するも、経費削減への連動に時間を要する
- ・ 報酬体系変更による社員給与の増加
- ・ 広島センター移転に伴う一時的な経費の増加
- ・ M&Aコンサル費用

外部要因

- ・ 最低賃金の上昇によるパート人件費の増加
- ・ 運賃保管料の増加

## 2025年3月期末 (百万円)

流動資産	流動負債
233,705 <b>75.0%</b>	158,961 <b>51.0%</b>
固定資産	固定負債
78,022 <b>25.0%</b>	36,209 <b>11.6%</b>
	純資産
	116,557 <b>37.4%</b>

総資産 : 311,728

## 2026年3月期末 (百万円)

流動資産	流動負債
256,312 <b>73.7%</b>	178,533 <b>51.3%</b>
固定資産	固定負債
91,568 <b>26.3%</b>	45,184 <b>13.0%</b>
	純資産
	124,162 <b>35.7%</b>

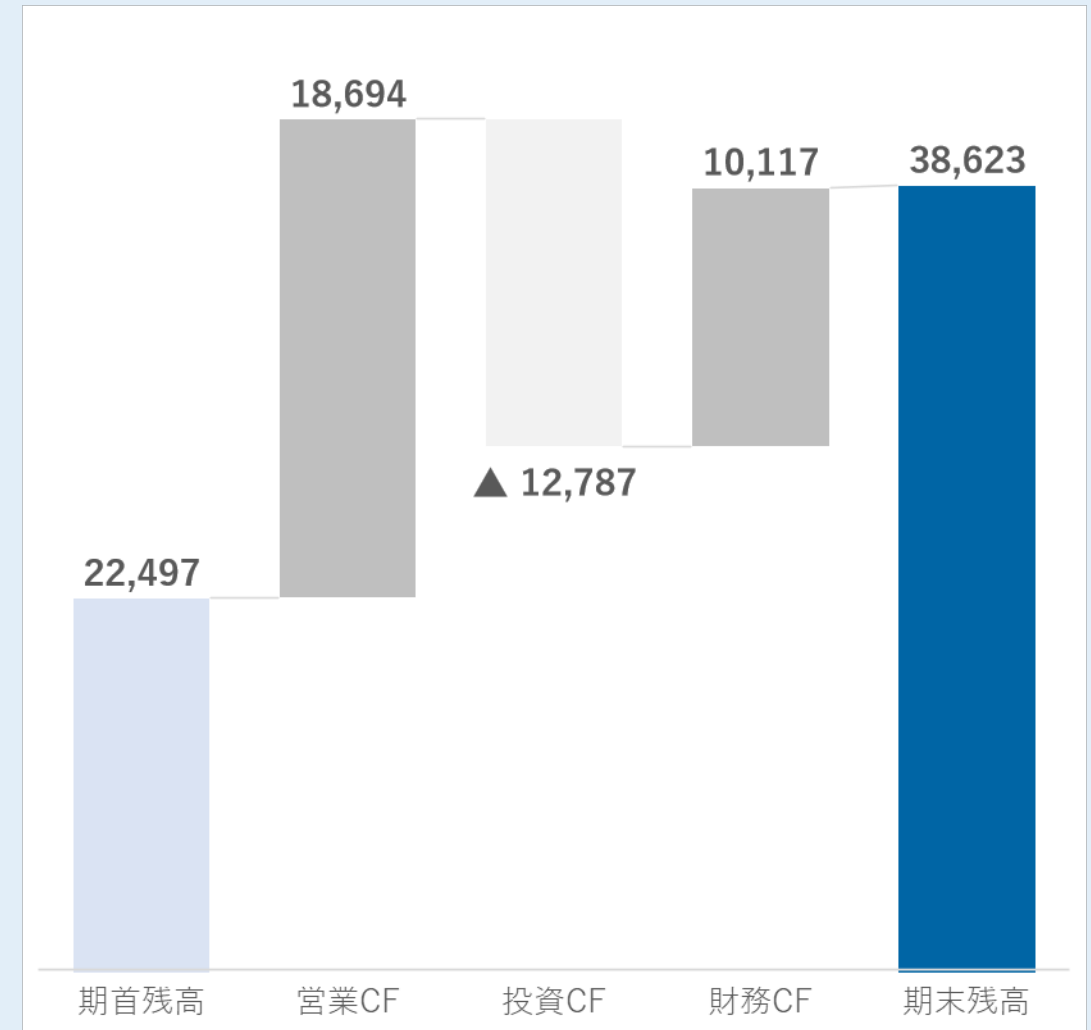
総資産 : 347,880

### 主な要因

- 流動資産 +22,606百万円  
(+) 現金預金 16,280百万円
- 固定資産 +13,545百万円  
(+) のれん 8,631百万円
- 流動負債 +19,571百万円  
(+) 支払手形・買掛金 9,385百万円  
短期借入金 9,132百万円
- 固定負債 +8,975百万円  
(+) 長期借入金 9,447百万円
- 純資産 +7,605百万円  
(+) 利益剰余金 6,443百万円

(百万円)

	FY25/3期実績	FY26/3期実績	増減
期首残高	27,016	22,497	▲4,518
営業CF	9,775	18,694	+8,919
投資CF	▲6,363	▲12,787	▲6,424
財務CF	▲7,977	10,117	+18,094
期末残高	22,497	38,623	+16,125
増減額	▲4,518	+16,125	+20,643



(百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	増減	増減率
売上高	1,004,749	<b>1,030,000</b>	+25,250	102.5%
営業利益	13,207 (1.3)	<b>11,000</b> (1.1)	▲2,207 (▲0.2p)	83.3%
経常利益	13,534 (1.3)	<b>10,500</b> (1.0)	▲3,034 (▲0.3p)	77.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	10,130 (1.0)	<b>7,000</b> (0.7)	▲3,130 (▲0.3p)	69.1%
EBITDA	18,069 (1.8)	<b>16,552</b> (1.6)	▲1,517 (▲0.2p)	91.6%
ROE	8.4%	<b>5.6%</b>	▲2.8p	—

\* ( ) 内は対売上比(%)

## Point

環境変化による大きな転換期を迎えており、新中計の前半は一時的に厳しい状況が見込まれる

## 要因

- ・小売業の再編・巨大化による影響
- ・地政学リスクの高まりによる不透明感
- ・インフレによるコスト増加
- ・将来に向けた成長投資の増加
- ・新中計において、成長戦略と体質強化戦略を推進

今後の施策については新中期経営計画2030資料にて開示

| 配当方針

配当性向30%を意識しながら  
安定配当・増配を図る

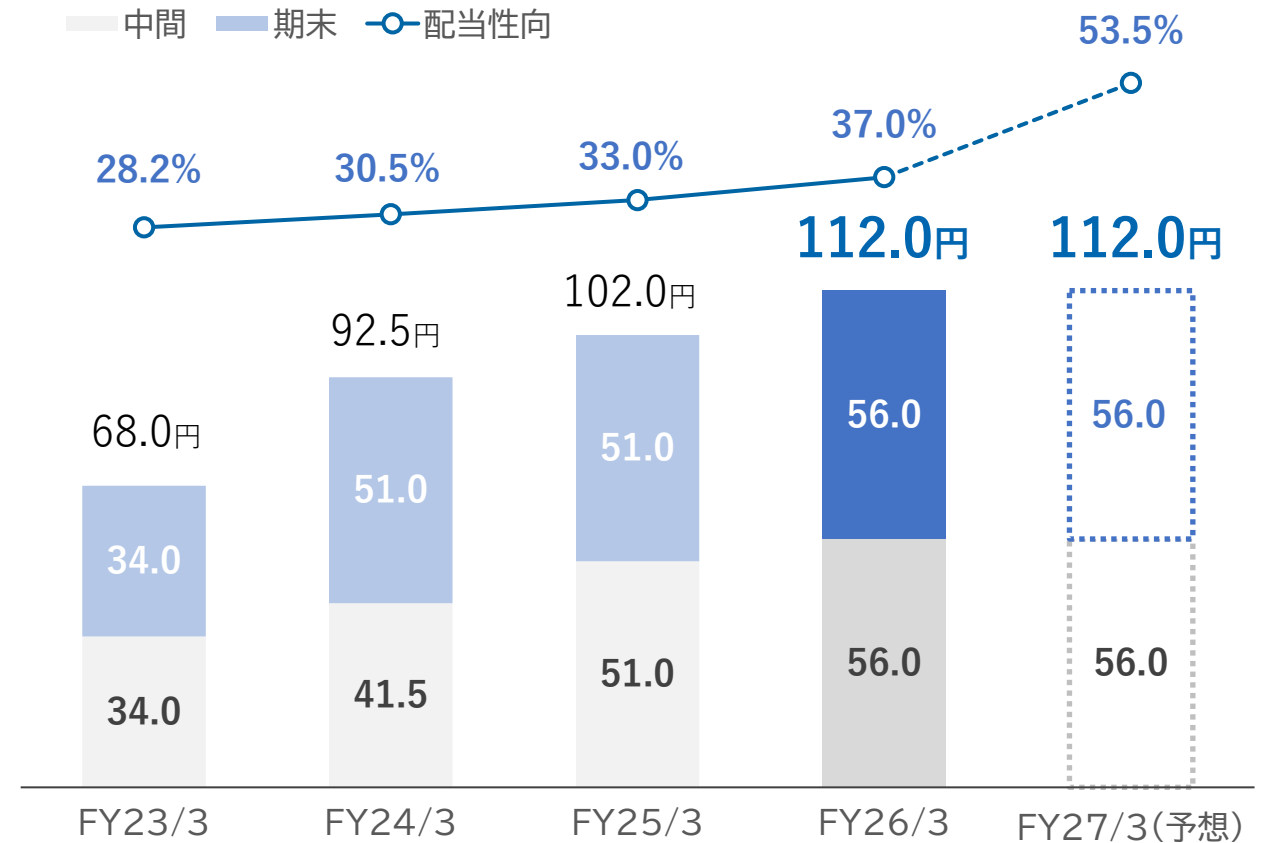
| 2026年3月期

中間56円、期末56円の112円  
(前期比+10円) **11期連続増配**

| 2027年3月期

中間56円、期末56円の112円を予想  
(配当性向：53.5%)

1株あたり連結配当金推移 (円)



\* 2024年1月1日付で当社普通株式を2:1に分割しております。  
それ以前の数値は分割後の金額に換算しております。

## 予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

---

IRに関するお問合せアドレス



[ir-info@arata-gr.jp](mailto:ir-info@arata-gr.jp)

決算に関するご質問やIR面談のご依頼お待ちしております

